

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

虎の門病院消化器外科研修を終えて

香川大学消化器外科

和田侑希子

この度、日本臨床外科学会国内研修で、2018年10月29日から11月11日までの2週間、虎の門病院下部消化管外科において研修をさせていただきました。

今回私が虎の門病院での研修を希望したきっかけは、昨年香川県で行われたセミナーでした。その際に黒柳洋弥先生の手術ビデオを拝見し、骨盤の深い部位にも変わらずきれいな視野が保たれた、非常に丁寧で美しいビデオであり感銘を受けました。また、若手を含めたチームみんなで上達を目指すという黒柳先生のお話にも大変感激し、ぜひ一度実際の手術を拝見したいと考えておりました。そんな中、日本臨床外科学会の国内外科研修プログラムの存在を知り、申し込ませていただきました。

研修内容としては、毎日の下部消化管外科の回診、手術見学、消化器カンファレンスおよび下部消化管外科カンファレンスへの参加が主でした。

病棟回診では、手術以外にも検査や化学療法の患者様も含めて50~60名の多くの患者様がいらっしやり、大変お忙しい中にもかかわらず一人一人の患者様に対して丁寧に接しておられました。初診から2週間以内に手術が行われるということもお伺いし、これほど多くの手術をされているにも関わらず手術待機時間が短いことに驚きました。

手術では、若手の先生がスタッフの先生方の指導の下で執刀されるケースも多く、私と同世代のレジデントの先生がこれほどまでにきれいな手術をできるのか、と驚くとともに大変に刺激になりました。手術手技は拝見していてその一つ一つの操作に対するこだわりが感じられました。黒柳先生の指導の下で、助手の先生がほんのわずかにテンションや展開の方向を変えるだけで剥離すべき層が明確になるのがわかりました。そのベストな展開の視野で、黄色と白の境界を追い求め、切離すべきはこの1点しかない、というこだわった手術でした。こうした妥協のない操作の積み重ねが、結果的には手術時間の短縮を可能にしているのだと思いました。黒柳先生がおっしゃっていた、どんな困難な状況でも折れない心を持つこと、というお話も強く印象に残っています。肝硬変で骨盤全体に怒張した静脈瘤を伴った直腸癌症例や、直腸癌局所再発に対する腹腔鏡下骨盤内臓全摘術など、高難度手術も拝見することができました。このような高難度の症例においても、徹底してR0を目指し、折れない心で丁寧な妥協のない手術をされておりました。

金曜の午後には、症例検討の後にビデオカンファレンスの時間があり、編集した手術ビデオを見ながら皆さんで意見を出し合っておられました。術者だけでなく、1つの手術からチームみんなで反省点を学ぶことができる非常によい機会だと思いました。また、大変お忙しい中にも関わらず私たち見学者が持参したビデオを見ながら指導をしていただく時間も設けていただきました。直接指導いただいた内容に加え、手術の際に指導されているポイントなども踏まえて再度自分自身のビデオを見直してみると、自分の課題に気づかされました。

研修期間中を通じて、手術中はもちろん、病棟やカンファレンスにおいても、常にチームの皆さんは雰囲気がよく、楽しく仕事をしておられる印象でした。チームの皆さんの信頼関係も感じられ、私も暖かく受け入れてくださり、本当に楽しい充実した2週間を過ごさせていただきました。

今回の研修は私にとって大変有意義な体験であり、改めて自分ももっと上達したい、こんな手術がで

きるようになりたいという思いを強くすることができました。学年や地域が違って、同じ思いで努力されているレジデントの先生方と出会うことができたことも、貴重な財産になったと思います。今回学んだことを糧に、折れない心を持って今後も精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった日本臨床外科学会の跡見裕会長、国内外科研修委員会委員長の高山忠利先生をはじめとした委員会の皆様、ご指導を賜りました黒柳洋弥先生をはじめ虎の門病院の先生方に心より感謝申し上げます。

